

九州伝来物語

今では日本各地で当たり前となっているあんなコトやこんなモノもしかすると身近なところで生まれたものかもしれない。

実は九州はさまざまなモノの伝来の地。たくさんのお「日本初」が、ここ九州で生まれたというストーリーがあるんです。今回はグランガーデンゆかりの福岡・熊本・鹿児島が発祥といわれているあれこれをご紹介します。 ※諸説あります。

熊本
発祥?!

スクランブル交差点といえば渋谷駅前が有名ですが、実は日本で初めて誕生したスクランブル交差点は熊本市の小飼交差点とされています。昭和44年、非常に交通量が多く交通渋滞で有名だったこの道路をスクランブル交差点にすることで、渋滞の緩和と事故防止に大きな成果をあげたということです。これは熊本県警が、当時アメリカで話題となっていた新交通システムに着想を得て導入したそうです。

スクランブル
交差点

福岡
発祥?!



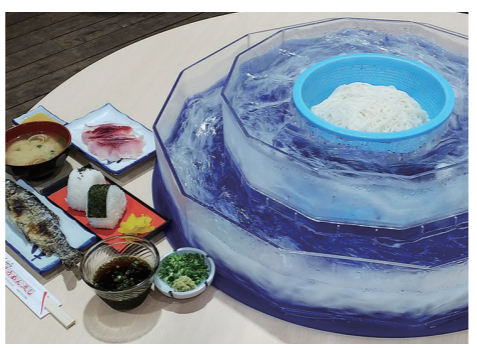
1年の締めくくりに食べるものといえば年越しそば。その発祥は鎌倉時代、うどん・そば発祥の地とされている博多区の「承天寺」にて、貿易商の謝国明(しゃくめい)が年を越せない町人を集め、蓄えていたそば粉を「世直しそば」としてそば餅を振る舞ったところ、新しい年への希望を持った人々が大晦日の夜に食べるそばを、幸運を運んできたそば「運そば」と呼ぶようになったことが始まりだといわれています。

年越しそば

鹿児島
発祥?!

そうめん流し

夏の風物詩といえば海、花火、そして、流しそうめん。そんな流しそうめんを気軽に楽しめる回転式そうめん流し発祥の地とされているのは、薩摩半島の最南端にある指宿市唐船峡。唐船峡の回転式そうめん流しは、中華料理の回転式テーブルと、洗濯用たらいをヒントに開発されました。また、川上から湧き出る「唐船峡京田湧水」は、平成の名水百選に選ばれ、年間を通じて水温が13℃の清涼なそうめん流しを1年中堪能することができ、県内外から多くの観光客が訪れています。



日本で初めて新婚旅行に行ったといわれているのが、幕末の志士・坂本龍馬。妻のおりょうと2人で薩摩を旅行し温泉や名所を巡ったとされていますが、直前の寺田屋事件で怪我を追った龍馬の湯治目的だったという話も。他にも諸説あるとされており、薩摩藩家老の小松清廉が新婚時(1856年)に夫婦で訪れた霧島旅行が日本初ではないかともいわれています。

新婚旅行

写真協力:公益社団法人 鹿児島県観光連盟

セーラー服

女子学生服として全国に普及しているセーラー服は、セーラーカラーと呼ばれる大きな襟が特徴。元はイギリス海軍の制服として広まり、世界中で今も人気の高いモチーフです。明治18年に創立された福岡女学院(当時は福岡女学校)では、エリザベス・リー校長発案のもと、大正10年12月にいち早く制服として採用しました。これは着物に替わる活動しやすい服として自身が着用していたセーラー服をモデルにしたとされ、当初は運動着としても使用されていたそうです。最近の研究により、名古屋市の金城女学校(現・金城学院)が、福岡女学院より数ヶ月早く採用したという説が発表されていますが、九州では初のセーラー服となったようです。



熊本
発祥?!



ごはんのおともとして真っ先に思い浮かぶものといえば、ふりかけではないでしょうか。今ではバラエティ豊かな味が展開されていますが、その発祥は熊本だといわれています。大正2年、カルシウム不足を補うために熊本の薬剤師が考え出したのが、魚の骨を粉にして食べることに。その魚の粉に醤油などで味を付け、乾燥し、そこに胡麻や青のりを加える事で、魚が苦手な人でも食べられるよう工夫してきたのが、今でも人気のふりかけ「御飯の友」なのです。

ふりかけ